



インタビューエッセイで学び合う (一年)

1 はじめに

級友にインタビューを行い、「その人らしさ」をみんなに伝えるための短い作文を書く。それをクラスで読み合い、インタビューの仕方や作文の書き方を学ぶ。この一連の学習を繰り返し、実践の中で少しずつインタビューと作文の腕を上げ、最後の作文を文集にまとめるという単元である。この作文を「インタビューエッセイ」と呼んだ。実践の場は五回。インタビューを成功させるための気づかいや質問の仕方、記録の取り方などを学び、それを実践する練習の場として七分間のインタビューを行った。その内容を二百字でまとめる。それをクラスで読み合いながら実践を振り返り、次の実践に生かす。この学習を、条件を変えつつ四回行い、五回目に四百字のエッセイを書き、文集にした。

2 指導計画 (全八時間)

目標

- ・質問しながら、より詳しく聞き取る力
- ・集めた情報を整理し、文章にまとめる力

第一次 準備 (二時間)

- ・インタビューの基本事項を学ぶ。
- ・インタビューで話したい内容を考える。
- ・質問する練習をする。
- ・メモを取る練習をする。

第二次 練習 (四時間)

- ① 質問を考える (三分間)
- ② 一人に対して、二〜三人でインタビューを行う (七分間)

- ③ 二百字のエッセイにまとめる。 (十五分間)

- ④ 次時にエッセイを読み合う。

- ⑤ 新たなコツを見つけ出す。

※①〜⑤を、役割を代えながら四回行う。

第三次 本番 (二時間)

ペアで、十分間のインタビューを交互に行い、四百字のエッセイを書く。

第四次 まとめ (二時間)

エッセイ集「この人ってこんな人なんだ」を配布し、読み合う。

3 指導の実際

(1) インタビューの基本を学ぶ

指導者が準備したインタビューの音声 (※) を聞き、要点を出し合った。インタ

ビューとして大切な「三つの気」(気づかい・楽しい雰囲気・本気)と、より具体的に相手を知るための質問の仕方を学んだ。また、音声はメモを取りながら聞き、要となる言葉を記録する練習も兼ねた。

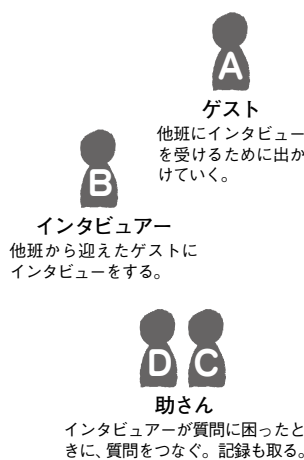
(2) 実践前に準備をする

全員が一度はインタビューを受ける。そのときに話したい内容を、三つのテーマ (小さな旅・趣味の楽しさ・印象的な出来事) から一つ選び、二百字で作文を書いた。

また、作文のタイトルから質問を考える練習を行った。例として「負けたけれどうれしかった試合」というタイトルに対する質問を全員で考え、基本的な事実を確かめるために5W1Hを使うこと、心情を引き出すために類語や例えを挙げて答えやすくする方法を学んだ。

(3) 緊張感と安心感のある場

生徒どうしによるインタビュー学習なので緊張感と安心感がある場を設定したいと考えた。そのため四人班を編成し、次のA、Dの役割を代えながら四回の練習を行った。複数でインタビューをすると、話の方向性が定まらない。だからと言って一人で務



めるのは責任が重い。そこで「助さん」という役割を設け、インタビュアーが質問に困ったときに助けることにした。

他班から来たゲストに、今日の作文のタイトルを聞き、三分間で質問を準備する。他班からやって来たゲストは、初めは少々緊張している。しかし、次々と質問に答えられているうちに、次第に和やかな雰囲気になっていった。ゲストの緊張を解き、三人で協力して本音を聞き出す場となった。

(4) 文章を読み合いコツをみつける

「インタビューエッセイ」を書く前に、『プロフェッショナル仕事の流儀』(NHK出版)の書き出しを読んだ。「いつもの作文よりも少し格好よく」と話し、十〜十五分では全員が書きあげた。ゲストとなった生徒はインタビューを受けた感想を書いた。次時に四名分のエッセイと四名分の感想を印刷して、読み合った。

■みんなで読み合ったエッセイ

「友人がいなければ無理だった。」S君はバスケの大会のことをそう話してくれた。彼がバスケを始めたのは、小学四年生の頃。当時は遊び心でやっていたという。ところが、ある時からバスケは彼にとってなくてはならぬ存在となった。ある大会のこと。チームのエースが休んだ。とまどいの中での試合。そんなチームを救ったのは、「絆」だった。S君はこうふり返る。「勝つという全員の心が勝利に導いた」。この思い出は今、彼にとって最高のものとなっている。

■インタビューを受けた感想

初めは言いたいことが伝わるか不安でした。しかし三人ともずっと笑っていて話しやすかったです。O君がリードするような感じで「この時はこんな気持ちだったのですか」というように、助けるような質問をしてくれて、O君が黙ってしまったときには、助さんのT君がすぐに質問をしてくれたので、リラックスして楽しく質問に答えられました。

エッセイを読み合いながら、「その人らしさ」が表れる文章にするために、ゲ

ストの言葉を引用する、表情を書くなどのコツを出し合った。また、インタビューを受けた感想を読み、うなずきながら聞く、全員笑顔でいるなどのコツも出された。

4 おわりに

生徒の感想には、質問され返答に困ったが、考えているうちに新たな記憶が掘り起こされたり、自分の本心に気づいたりしたこと、また、ゲストとしてインタビューを受けるときの緊張感が、次第に自分の話を真剣に聞いてもらえる楽しさへと変わっていったことが書かれている。数名分のエッセイを読み合う場面では、エッセイの書き手だけでなく、エッセイの中で褒められたゲストがうれしそうに照れている姿が微笑ましく、級友の新たな一面を知ることがクラスのみんなで楽しめた単元となった。

今後、生徒が主体的に課題を探究するためには、自分で問いを立てて調べ、さらに新たな問いを立て、問題を掘り下げ、それをまとめて他者に伝える学習の積み重ねが必要だと考えている。その土台の学習の一つとして、今回の単元が生きてほしい。

特集

「インタビュー」で育てる力

※『NHK アナウンサーとともにことば力アップ』(2009年4月〜2010年3月号/NHK出版)の中の、小野文恵アナウンサーの記事「インタビュー三つの気」などを参考に、架空のインタビュー音声を作った。

